

[中世日本をとりまく世界展によせて]

朝鮮時代前期の瀟湘八景図

— 2つの館蔵品から —

中国・北宋時代末の文人宋迪(?~1058~1078~?)によって創始されたという「瀟湘八景」は東アジアの文学・造形において非常に流行した主題です。八景は中国ではもちろん日本・韓国においても盛んに詩に詠われ、画として描かれました。瀟湘八景の舞台となった「瀟湘」は中国・湖南省の洞庭湖とその南にある瀟水・湘江の流域のことです。湿潤な空気に包まれたこの一帯は様々な古代神話を想起させ、また、文人墨客の訪れる景勝地としても有名です。宋迪が瀟湘の地を訪れたのが北宋・嘉祐8年(1063)3月頃とされますから、その頃の成立と考えられます。この宋迪の手になるという「八景図」が13世紀初以前には既に韓国に流入していたことは、高麗時代の文人李仁老(1152~1220)や陳灌(1200年頃に活躍)の詩の存在から知ることができます(『東文選』など)。

では、朝鮮半島に瀟湘八景が伝来され描かれるようになったのは何時頃でしょうか?『高麗史』には、高麗・仁宗2年(1124)に枢密使李資徳と共に北宋に赴いた李寧という画家が時の皇帝徽宗(在

位1100~1125)に絶賛され、翰林待詔である王可訓・陳徳之・田宗仁らに李寧から絵を学ばせるようにさせたという記事があります。この内の王可訓という画家は中国側の文献『画継』において瀟湘八景と関わりが深いことが指摘されています。さらに、高麗・明宗15年(1185)3月、李寧の子である李光弼が明宗(在位1171~1197)の命で文臣たちの作った瀟湘八景賦に基づいて絵を表したのも、父李寧のことがあったからでしょう。つまり、高麗時代もかなり早い段階で、瀟湘八景は詩画共に受容され流行していたこととなります。

朝鮮時代前期、図画署画員の安堅が活躍した15世紀半ばから土人画家の梁彭孫(1488~1545)の画風が多く認められる16世紀半ばまでのほぼ1世紀の間に制作された瀟湘八景図の現存作例は10件をはるかに越えています。最近でも16世紀半ばに制作された「平沙落雁図」(京都・西本願寺)が紹介されたばかりです。朝鮮時代前期の山水画の現存状況からすれば、その流行は非常に顕著なものです。

「八景詩巻題跋」(ソウル・個人)によれば、朝鮮・世宗24年(1442)

に安平大君李瑢(1418~1453)が中国・南宋の寧宗(在位1198~1224)の八景詩を得たので、絵を描かせ、李永瑞(?~1450)に序を、集賢芸文諸学士ら18名に詩を書かせました。世宗の第3子であった安平大君は当時最大の中国絵画收藏家であり、安堅のパトロンでした。この「瀟湘八景詩画卷」は朝鮮絵画の最高傑作である安堅「夢遊桃源図巻」(1447年、奈良・天理大学中央図書館)と共に安平大君が朴彭年(1417~1456)・成三問(1418~1456)ら近臣たちと共有し得た異郷もしくはユートピアの表出であったとも見なせましょう。朝鮮時代前期において、瀟湘八景にはこのような典型が存在したことになります。

大和文華館には朝鮮時代前期の「瀟湘八景図」が2件收藏されています。

まず、新収品の「平沙落雁・漁村夕照図」ですが、朝鮮時代前期の「瀟湘八景図」(京都・幽玄齋コレクション)の内の2幅と基本的に図様が符合しており、元来は「瀟湘八景図」八幅と考えられ他6幅の図様も復元できます。地平線近くの空には朱を薄く刷いて夕照の光線を表し、後退する遠山には淡青を施して奥行を巧みに示しています。水墨の濃淡の微妙な使い分けは「夢遊桃源図巻」にも通じるもので、制作年代も安堅の活躍した15世紀半ばに近いものと考えられます。

また、伝安堅「煙寺暮鐘図」は

樓閣の表現が梁彭孫の山水画に似ており、元時代李郭派山水画との関係がより顕著ですので、その制作年代は16世紀に入ってからと考えられます。前景の岩の形態が特徴的で、元時代前期の伝閣次平「山水図」双幅(東京国立博物館)などにその祖型は求められます。画右上方に賛が記されていますが、最近の研究でそれが史九韶「瀟湘八景図記」に基づいていることが判明しました。補なって読めば以下ようになります。

「嵌入松門 陰生蓮宇
錫杖之僧 将帰林莽
蒲牢一聲 猿驚鶴舉
幽谷雲藏 東山月吐」

朝鮮時代前期の「瀟湘八景図」に共通しているのは、基本的に中国北方の風土から生まれた李成・郭熙派山水画の造形語彙に拠っているということです。日本では南宋時代の夏珪・牧谿・玉澗といった画家たちの「瀟湘八景図」がその古典になりました。「瀟湘八景」は華北系の李成派の画家である宋迪が江南の瀟湘という景勝地を描いたものがその始まりです。つまり、韓国が中国北方に近い位置にあり、趙孟頫ら元時代の文人たちと直接交流があったからだけでなく、「瀟湘八景」において日本では継承されなかった別の側面を受容し、さらに展開していったものと考えられます。

(板倉聖哲)

平沙落雁図 伝安堅筆



漁村夕照図 伝安堅筆

瀟湘八景図 幽玄齋コレクション
漁村夕照(八幅の内)

煙寺暮鐘図 伝安堅筆

